

2021年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究内容	備考
法	教授	河村 厚	短期 (6カ月)	2021.4.1 ～ 2021.9.20	—	関西大学	17Cの哲学者スピノザの政治心理学的研究。特にスピノザからフロイトの精神分析学への影響及び両者の比較の研究。またスピノザとネグリ、ドゥルーズ、シュトラウスなどの現代の政治思想の比較研究。	
文	教授	堀 潤之	長期 (1年)	2021.4.1 ～ 2022.3.31	カナダ、フランス	関西大学、東京大学、早稲田大学	1940年代から60年代を中心とするフランスの映画批評・映画理論の言説の歴史とその現代的意義を探究する。具体的には、特にヌーヴェル・ヴァーグの前史にあたる時期にバザン、アストリュック、トリュフォー、リヴェット、ゴダールらによってどのような言説の布置が形成されていたのかを、1920年代のサイレント期における理論的言説との差異も踏まえながら検証する。	
	准教授	松井 幸一	長期 (1年)	2021.4.1 ～ 2022.3.31	ベルギー、ドイツ、フランス、イギリス、ベトナム、シンガポール、マレーシア、タイ	関西大学、国立国会図書館、沖縄県立図書館、今帰仁村歴史文化センター	アジアとヨーロッパを対象として、都市空間が形成される過程の違いを地域ごとの思想・文化から比較・検証する。また都市形成の思想や文化は地域を越えて伝播していく点に着目し、それらが受容されていく過程によって都市空間がいかに変容してきたかをフィールドワークと資料の分析から明らかにする。特にアジアの都市では、都市形成の思想が現在の生活といかに結びついているかを含めて実証的に考察していく。	
	教授	黒田 一充	短期 (6カ月)	2021.9.21 ～ 2022.3.20	—	関西大学、堺市博物館、宮古島市総合博物館、宮崎県・椎葉民俗芸能博物館、国立国会図書館、長野県阿南町新野・伊豆神社、鹿児島県志布志市安楽・山宮神社	主として日本の祭祀を研究しており、各地で行われている寺社や民間の祭り・行事の儀礼や民俗芸能、祭祀組織などの比較検討と、文献資料を使って歴史的な変化などをたどる作業を行っている。とくに当番の家でおこなわれる儀礼とそこでの神仏の祭り方を比較、検討する研究と、これまでは男性中心とされていた祭祀組織について、女性の役割から見直していく研究を並行して行い、研究成果をまとめたい。	
	教授	品川 哲彦	短期 (6カ月)	2021.4.1 ～ 2021.9.20	ドイツ、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、フランス、イギリス、スイス、オーストリア、ポーランド、チェコ、イタリア、ギリシア、トルコ、デンマーク、スペイン、ポルトガル、アメリカ	—	ハンス・ヨナスの哲学・倫理学の研究(ヨナスは、グノーシス思想の研究から出発し、独自の生命哲学を構築し、その後、生態系危機に抗って、未来世代に人間として生きられる地球環境を残す現在世代の責任を説く責任原理を提示した。晩年はホロコーストを契機とした独自の神学的形而上学的思索を展開した。その思想の研究と、それにあわせて、ドイツにおける戦後民主主義の浸透に着目し、日独の比較のためにデュッセルドルフ大学日本学研究所を研究拠点にする予定)。	
	教授	多賀 太	短期 (6カ月)	2021.9.21 ～ 2022.3.22	アメリカ、カナダ	—	「東アジアの男性と男性性に関する比較社会学研究」をテーマに、ハーバード大学ライシャワー日本研究所所長のMary C. Brinton教授をはじめとする現地研究者と共同研究を行う。また、アメリカとカナダで展開されているジェンダー平等に向けた男性と少年の教育プログラムの先進例を調査し、日本と東アジア諸国への適用可能性について検討する。	
	教授	原田 正俊	短期 (6カ月)	2021.4.1 ～ 2021.9.20	ベルギー、チェコ	関西大学、東京大学、国文学研究資料館、高知県立歴史民俗資料館、東北大学、神奈川県立金沢文庫、山梨県身延山文庫、九州国立博物館、米沢市上杉博物館	日本中世の寺社勢力と社会について、寺院法・生活規範に関する史料を調査・収集して寺社と公武権力との関係を明らかにしていく。特に中世後期について重点的に研究を進め近世社会との接続を目指す。さらに中世後期の各宗派教学書を収集し思想的な特徴を解明することによって、研究史上、十分検討されていない顕密体制の変容を明らかにしていく。また、これらの新しい成果を国内海外の研究学会等で発表していく。	
経済	准教授	北川 亘太	長期 (1年)	2021.4.1 ～ 2022.3.31	フランス、スイス	関西大学 他	今日、実務および学術において「無形資産intangible asset」という論点に注目が集まりはじめている。無形資産の重要性が大きくなった経済ではその蓄積(フローの積み重ね)のみならず、無形資産(ストック)の発見・解釈・活用が重要になる。申請者は、それらについて分析の観点・手法を提供する、フランスにおける制度経済学派の一つ「コンヴァンション理論économie des conventions」を現地の研究者から学び、最新の動向をつかみ、自らの事例研究に応用できるようにする。	
商	教授	杉本 貴志	長期 (1年)	2021.9.21 ～ 2022.9.20	イギリス	関西大学、慶應義塾大学、一橋大学、日本生協連資料室、くらしと協同の研究所	日・英両国における消費社会の変化と生活協同組合の対応 英国で誕生し、日本に移植された消費者の協同組合運動が、消費社会の変化とともに、いかなる対応をして、どのような変化を遂げたのか、世界大戦の勃発や情報化の急激な進展、パンデミックによる都市閉鎖などのトピックを取り上げて考察する。	
	教授	朴 泰勲	長期 (1年)	2021.4.1 ～ 2022.3.31	韓国	京都大学、岡山大学	近年、技術経営の分野では探索的技術開発と搾取的技術開発のバランスを取ることが企業のイノベーション成果に大きく影響を及ぼすとされ、両利き戦略が注目を集めている。本研究では、両利き戦略を実行する方法として自動車産業における完成車メーカーと部品メーカーの特許戦略と技術者コミュニティによる自己ネットワーク戦略に注目する。そして、韓国自動車企業の現地調査に基づく事例分析と統計データ分析を通じて、上記の要因がイノベーション成果にどのような影響を及ぼしているのかについて明らかにする。	
社会	教授	酒井 千絵	長期 (1年)	2021.9.21 ～ 2022.9.20	ベルギー、アメリカ	—	・多領域でグローバル化が進行し、労働や留学、難民など多様な人々が国境を越える中で、ヨーロッパ社会の変容や課題を考察する。さらにEUの変化や新型コロナウイルスの広がりが、人の移動にどのような影響を与えたかを調査する。 ・シカゴを中心に20世紀初頭の社会学的な調査とその資料を収集し、ジェンダーの観点から分析する。	

2021年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究内容	備考
政策創造	准教授	森田 崇雄	長期(1年)	2021.9.21 ～ 2022.9.20	アメリカ	—	米国の州法に基づく環境アセスメント手続において気候変動に係る影響がどのように考慮されているかを明らかにすることを目的とする。気候変動影響評価については、日米ともに行政実務および裁判実務における判断基準が形成途上にあるが、米国の一部州では近年に策定された行政指針の下で気候変動影響評価が実施され、その適否に係る司法判断も一定程度みられるようになってきた。米国の実務研究は、日本における気候変動影響評価に有益な示唆を与えられようと思われる。	
	教授	西澤 希久男	短期(6カ月)	2021.9.30 ～ 2022.3.29	タイ、ラオス、マレーシア、ミャンマー、シンガポール	—	本研究は、現在世界各国において求められている法の支配の確立の問題を検討する上で重要な法学教育について、日本との関係が密であるASEANに焦点を当て、加盟各国の法学教育の現状とともに、加盟国間の法学教育に関する相互交流、協力の現状とその問題点を考察することを内容とする。	
外国語	教授	柏木 貴久子	長期(1年)	2021.4.1 ～ 2022.3.31	ドイツ	—	一年間の国外研究を望むに当たっての研究テーマは二つある。ひとつは文化学としての文学研究の立場から探るライン地方の文化である。いわゆるライン・ロマン主義に捉われるのではなく、ライン川流域の街を拠点に活躍した女性作家たちの作品を分析の対象とする。もうひとつのテーマはドイツ語教育における文学作品の活用であり、教養教育としての中級レベルのドイツ語授業において、文学作品を通じていかに複合的読解力を養うことができるか、その実践的方法論を探る。	
	教授	玄 幸子	短期(1～3カ月)	2021.7.26 ～ 2021.9.17	—	東洋文庫	敦煌文献のマイクロフィルムほか、草創期敦煌学の文献資料に関する総合的調査と分析を行う。	
	教授	高明均	短期(1～3カ月)	2021.8.1 ～ 2021.9.20	韓国、アメリカ	—	1. 近・現代朝鮮語の文献資料の調査・研究 2. 外国(韓国・米国)における最新外国語教授法 3. 海外朝鮮語研究者とのネットワーク構築・情報交換	
人間健康	准教授	森田 亜矢子	長期(1年)	2021.4.1 ～ 2022.3.31	—	関西大学、大阪大学、大阪府立大学、大阪市立大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、早稲田大学、法政大学、明治大学、津田塾大学 他	ヒューリスティックな対処法略を可能にする情報処理機構の存在を仮定したおかしみの理論について、その検証と発展を目的とする研究活動を行う。活動の内容は、国内外の文献研究と国内での調査研究を予定する。具体的には、研究テーマに関連して、神経科学、工学、人類学、生物学、心理学、哲学などのHuman Scienceを構成する諸領域における文献の収集と整理を行いつつ、仮説に対する考察を加え、絵画や造形や装飾や物語などの創作物や表現作品にうかがえる可笑しみを手掛かりに仮説の適合範囲について検討を行い、これらの研究活動の成果をふまえて仮説の修正と理論的発展を試みる。	
	教授	所 めぐみ	短期(6カ月)	2021.10.1 ～ 2022.3.31	フィンランド、アイルランド、スコットランド、イングランド	関西大学	地域福祉の主体形成という課題について、日本の地域福祉における理論的および実践的課題と、海外(主にヨーロッパ)でのアクティブ・シチズンシップを育てるコミュニティディベロップメントラーニングならびにソーシャルペダゴジーの理論的および実践的課題の比較・検証をし、地域福祉の主体形成とそれを支える専門的支援を、日本における実践と専門職養成の枠組みにどう位置付けていくべきなのかについて検討する。	
総合情報	教授	竹中 要一	短期(6カ月)	2021.4.1 ～ 2021.9.20	アメリカ、アジア(国未定)	名古屋大学、大阪大学 他	生物情報学及び法情報科学分野の研究遂行能力の向上、及び新規知見の獲得を目的とし、米国合衆国の大学より生物情報学を主に研究している研究室を訪問・滞在する。具体的には機械学習や深層学習の生物学データへの応用研究を遂行しているハワイ大学に長く滞在する。また、国内において医学データ、法学データを産生している2大学を訪問・滞在し、最新動向の調査を行う。また、国際会議、国内会議において研究発表も積極的に行う。	
	教授	中元 康裕	長期(1年)	2021.9.21 ～ 2022.9.20	ドイツ	関西大学、同志社大学、神戸大学	現実経済には様々な経済ショックが存在し、これらの経済ショックは個人の所得ならびに経済全体の総所得に影響を与え、それに伴い所得の分布は随時変わっていく。そこで、マクロの経済ショックや個別の経済ショックを導入し、より現実に即したモデルから国内の所得不平等問題を分析することが学術研究員の研究内容である。マクロの経済ショックや個別の経済ショックを含む確率微分方程式を導入した大規模人数からなるマクロ経済動学モデルを構築する。具体的には、Khieu and Walde (2018)を応用する。	
	教授	林 勲	短期(6カ月)	2021.9.21 ～ 2022.3.22	アメリカ	国立スポーツ科学センター、順天堂大学、オムロン京阪奈イノベーションセンター	「脳知能情報学とeHealthに関する基礎研究」 当研究室では、人間の記憶、学習、認識などの脳の機構の解明に向けて、AIソフトコンピューティング手法を活用し、学習機能を有する知覚・知能モデルの確立を研究している。研修先(ボストン大学等)では視覚モデルによるパーキンソン病診断の基礎研究を行っている。ボストン大学では、当研究室のバーチャルデータ発生型アンサンブル学習法をeHealthへ応用する共同研究を推進する。さらに、本手法を用いた卓球戦略の知識獲得法の提案を目指し、研修先(国立スポーツ科学センター・順天堂大学・オムロン)との共同研究により、スポーツ工学のeHealthへの応用を目指す。	

2021年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究内容	備考
社会 安全	准教授	近藤 誠司	短期 (6カ月)	2021.4.1 ～ 2021.9.20	—	京都大学、京都府京丹波町、静岡県浜松市、滋賀県草津市、鹿児島県鹿児島市、兵庫県尼崎市、兵庫県西宮市、岩手県大槌町、宮城県石巻市、福島県西郷村、福岡県朝倉市、福井県福井市、愛媛県内子町、和歌山県広川町、兵庫県神戸市	災害情報を共有するためのローカルメディアの機能と効果をメディア横断的に比較・検討する。緊急時・復興時、そして平素の防災・減災施策を推進するために、全国でいまだどのようなローカルメディアが活用されていて、それがどのような効果を持ち、ステイクホルダーにどのような影響を与えているのか、実地調査を中心として質的データを集め、総合的に論考する。	
システム 理工	准教授	山田 啓介	長期 (1年)	2021.9.21 ～ 2022.9.20	オーストラリア	関西大学 他	構造と音場の連成振動の解析手法の研究 機械・構造物の振動および騒音の低減に関する研究 スマート構造およびエネルギーハーヴェスティングの研究	
環境 都市工	教授	木下 光	短期 (6カ月)	2021.10.1 ～ 2022.3.31	シンガポール、マレーシア、インドネシア、ベトナム、スリランカ、南インド	—	シンガポールを拠点とするアジアの風土に根ざした住宅建築をつくる素材と技術に関する研究	
化学生命工	被選考者なし							
法務	被選考者なし							
会計	被選考者なし							
心理学	被選考者なし							
教育推進	被選考者なし							
国際	被選考者なし							